

湘南教育研究交流会

2月2日(水)に湘南教育研究交流会を開催しました。湘南教研の代替の場として、多くの分会員の参加のもと開催できるよう企画してきていたのですが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、今年度も希望者のみでの開催となりました。

「コロナウイルスで見直された教育課程」「ICTの活用による業務時間短縮や授業の変化」「学校内の多忙解消のとりくみ」について参加者の学校の様子を聞きながら意見交流をしました。

最初に話題にあがったのは、現在学年閉鎖・学級閉鎖をしていることにより、オンライン学習をしなければいけない状況に追い込まれている学校の対応についてでした。藤沢市においては、市教委から学習の保障として「オンライン学習ができる。」という文書が各家庭に配付されたことを受け、保護者の中には、自宅でオンライン双方向の授業が受けられると認識した方もいました。一方で、教員は日頃の業務の中、オンライン授業の準備まで追いつかず、黒板を写しながら普段の授業を見せること、まして学習塾のオンデマンド配信のように解説が吹き出しで出てくるようなものができるはずがありません。保護者の思い(望み)と学校ができることの認識の違いが大きいと交流の中で話題となりました。また、学校間でのとりくみの違いも話題に上がりました。管理職の指示の仕方、担当教員の負担の多さや学校にICTに詳しい人がいるかによって学校のとりくみ状況が全く違ってきていることが確認できました。多くの学校は、タブレットを持ち帰って、課題を提供することに使うところが多いのかなという印象でした。参加者からは、「思っていたよりもオンラインで授業をしているところが少なく、絶対やらなければいけない状況ではないことが分かった。」との感想がありました。

次に、コロナ禍により業務が増えているにも関わらず、人的支援も教育予算も増えないことに対する疑問や不満が話題にあがりました。教職員の就業は17時までで、それまでに終わらない業務が多忙の原因であり、ましてや教員が本来すべき業務を削ってまで行わないといけないことが優先されるというのはおかしい話です。さらに、各地域により教職員の業務だと思っているものが違うということも分かりました。エアコンの清掃、給食費の集金など地域によっては業者がやってくれているが、教員でなくてもできる業務を行う人をつけてくれることで、多忙解消に繋がるのではないかと意見があり、現在配置されているSSSやICT支援員ができることを周知することの大切さも話題となりました。特に、ICT支援員が増員されたり、時間を増やしてくれたりすれば、年度末のタブレットの切り替え、パスワードの変更、年度初めの設定など、教員の業務量が軽減できるのではないかと声が多くあがりました。



今回の湘南教育研究交流会は規模を縮小しての開催となりましたが、他地域の人と意見交流することは、日頃の教育実践をふり返ったり、教員の働き方について知ったりする良い機会となります。

来年度の教研は、みんなで教育実践や各分会のとりくみを交流する場にしたいと強く思いました。

かながわ教育フェスティバル2021

1月22日（土）、23日（日）に「かながわ教育フェスティバル2021」が昨年に引き続きWeb配信により開催されました。

22日は、写真家の松本紀生さんによる全体記念講演が行われ、写真を交えながらアラスカの自然の雄大さと過酷さ、地球温暖化がもたらす環境の変化について話されました。「私はアラスカに魅せられ、アラスカ以外の写真を撮る気持ちはないぐらいアラスカの写真を撮ることに夢中である。」と話されていたのがとても印象に残りました。午後には教育シンポジウムとして「今こそ学校教育の本質を考えよう！—学校という社会空間の可能性と教職員—」が行われ、学校の可能性についてさまざまな角度から話し合いが展開されました。

23日は、「新型コロナウイルス感染症下における教育実践と子どもの姿」として実践報告が行われました。湘南教組からは、書面での湘南教研の各分会のレポートを参考に、教科指導の工夫として「新型コロナウイルス感染症下における学校のとりくみ」を報告しました。



多くの分会員の積極的な参加、ありがとうございました。

日教組第71次教育研究全国集会

1月28日（金）から30日（日）の3日間、第71次全国教研が開催されました。今次教研は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からWeb配信による開催となり、全国からのべ6,000人が参加しました。

1日目の全体集会での主催者挨拶では「新型コロナウイルス感染症の影響で子どもたちは大変な我慢を強いられたり、心身のストレスや将来への不安を抱えたりしている。教職員はそうした子どもたちに寄り添いながらゆたかな学びのために日々の教育活動を行ってきた。このような時だからこそ、ゆたかな学びを保障する教育実践について現場の状況やとりくみを共有し議論する場として全国教研の果たす役割は大きい。子どもの思いや考えを出発点として子どもを中心に据えた教育活動・教育実践につなげていきましょう。」と提起されました。

記念講演は広田照之さん（教育社会学者）から「夢と希望をもって教育を考えていくために—社会の変容と教育—」と題した講演で、これまでの教育改革とこれからの教研活動についての話がありました。

2日目、3日目は分科会でのレポート発表がありました。

湘南教組からは、「美術教育」鎌倉市立御成中分会、「平和教育」鎌倉市立関谷小分会、「日本語教育」茅ヶ崎市立浜須賀中分会、「インクルーシブ教育」鎌倉市立西鎌倉小分会、「子ども・教職員の安全・健康と環境・食教育」藤沢市立新林小分会のレポートを発表しました。

Webでの開催となり、現地に行って多くの仲間たちとの交流ができずに残念ではありましたが、全国の発表を傍聴できることはいい点ではありました。

コロナ禍の状況が解消され、学校現場が通常に戻り、子どもたちのゆたかな学びを保障する教育実践を分会で共有できる日が早く訪れることを願わずにはられません。

「教員不足」調査、公表へ。。。。

1月31日、文科省は公立学校のうち1,897校が始業日時点で2,558人の「教員不足」が発生していたと発表しました。

関東地区の状況をまとめたものが次の表の通りです。

2021年度 始業日の公立学校の教員不足数		
	関東地区 ※政令市を除く	
	小学校 (人)	中学校 (人)
茨城	58	59
栃木	25	7
群馬	3	0
埼玉	168	87
千葉	78	27
東京	0	0
神奈川	93	53

今回の調査の問題点は、

「1年間の中で、最も欠員が生じにくい始業日の調査であること」

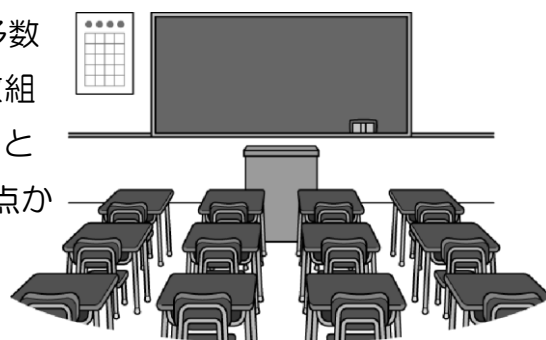
です。つまり、2月時点での学校現場は、今回の報道以上の欠員が生じているということになりますが、その課題が見えなくなっています。

報道にある「教員不足」は、教育行政がこのような状況になることを想定できたにも関わらず、積極的な対策を講じ得なかった当然の結果と言えます。しかし、その当然の結果のツケは、結局学校現場が飲み込まなければならない現状には憤りを感じてなりません。

代替教職員が見つからず、子どもたちに影響が出ている状況があること、また、だからこそ教職員の労働環境を早急に改善する必要があることを私たちはこの間、日教組、組織内議員に対して組合員の声を届けるとともに、県・市町教委との全体交渉などのさまざまな場で声をあげてきました。現在の学校現場の深刻な労働環境を教職員組合として、社会的に発信し、世論喚起することで、空調設備が設置されたり、教員免許更新制が廃止になったりするなど、学校・教職員に関わる課題の解決がはかられてきたこともあります。

しかし、その一方、学校現場の労働環境の過酷さが発信されればされるほど、新たに学校現場で働こうという気持ちをもつ方の思いをください、教員志望者数が減少していく、結果としてさらなる教職員不足に陥る、という悪循環になっていく現状もあります。

今、湘南3市1町においても代替者が見つからない学校が多数あります。本来は、教育行政の仕事だと認識しつつも、湘南教組においても、つながりの中でなんとか代替者が見つからないかと声かけを行っています。今後も、教員不足、教員未配置等の観点から、国、県段階で公教育の継続性の課題の認識を質すとともに湘南教組としてできることに全力でとりくんでいきます。



不満の声が絶えない教員免許更新制が廃止へ向けて

文科省は「研修の充実と教員免許更新制の改正については、今後発行される免許状について、普通免許状及び特別免許状を有効期間の定めのないものとし、更新制に関する規定を削除する。」とし、法律の成立後速やかに施行する方向で検討中としました。また、研修に関する「教育公務員特例法の改正」については2023年4月施行としています。

1月14日には、教育職員免許法の改正案に、廃止の日付について2022年7月1日と盛り込むとされました。仮に改正教育職員免許法が7月に施行された場合は、それ以降に更新期限を迎える教員は更新講習を受ける必要はありません。ただし、4月～6月に免許更新期限を迎える人が全国で1,000人程度いるとされ、該当者への対応が課題となります。

この間、湘南教組は日教組・神教組に結集し、既に授与された教員免許状の有効期間についてすべて期限を付さない免許状にすることや、研修受講履歴の記録・管理については、必要最低限度とすること等を文科省と協議してきました。今後も早期の教育職員免許法の改正や教育公務員特例法の改正に伴う課題解決に向けてとりくんでいきます。

【今後想定される課題に対すとりくみ】

- 2022年4月～6月に免許更新期限を迎える人たちが失効しないような経過措置を求める。
- 手続きが複雑であることが現場復帰の妨げの一因となっていることから、手続きの簡素化を求めていく。
- 「学校における働き方改革」を前提に、研修の精選も含めて業務削減を求めていく。
- 既に授与された免許状の有効期限についても、施行日以降は有効期限の定めがないものとするよう求めていく。
- 研修の記録は必要最低限度となるよう求めていく。

2022年度 文科省予算

2022年度国予算は文科省の要求に対して、大幅減の予算編成となっています。主なものとしては、次の通りです。

○小学校高学年における教科担任制の推進	文科省要求	2,000人	→	予算案	950人
○学校における働き方改革や複雑・困難化する教育課題への対応	文科省要求	475人	→	予算案	180人
○スクールサポートスタッフ	文科省要求	14,700人	→	予算案	10,650人

スクールサポートスタッフに係る予算に関しては、前年度比では1,050人の増ですが、文科省の要求からは4,000人も減らされたものとなっています。

教職員のブラックな労働状況やそれを起因とする「なり手」の減少などが話題にあがり、以前に比べて教職員の待遇改善の声が社会的にもあがっています。コロナ禍における業務の激増にも学校現場は子どもたちのために耐え、必死で奮闘してきました。

今回の予算は勤労意欲を削ぐものだとしか言いようがありません。

湘南教組は、何も期待できない国の姿勢を嘆きつつ、今後、県、市町教委独自の人的配置を求めてとりくみを強化していきます。

こういうのもQOL？

今までの自分は遅くまで学校に残って仕事をしていた。

残業している自分を心のどこかで“がんばっている人”と捉えていた。しかし、働き方改革が叫ばれ、みんなで時間を意識すると前より早く帰ったり、会議が時間内に終わったりする場面が増えてきた。これはとても素晴らしいことだ。何でもっと早く気付かなかったのかなあ~と思うことすらある。

職員会議の効率化、連絡共有のデジタル化、無駄のない会議提案、司会進行。サクサクすすむ。早く終われば、その分自分の時間が増える。プライベートの時間だって増える。働き方改革、クオリティ・オブ・ライフはどんどん向上させたい。

しかし、今の自分は執行部にも在籍している。「執行部って、夜遅いんでしょ？」とよく聞かれるし、確かにそういう時もある。でも、日中は自分の仕事を職場のみんながサポートしてくれていて、(時折、書記局への足どりが重くなる時があるけど…)その分、夜は組合員の生活や教育環境に関わることを執行部として頑張る。勉強になることもとても多い。

と、ここまでだったらそんなに遅くなることもないのだが、他校の様子や誰かのちょっとした愚痴から、“小さな教育論”で盛り上がることもある。笑い声も絶えない。いろいろな先生がいるから、いろいろな考え方や視点があって、地域とか校種とかも違って、学年とかじゃないから年齢・経験なども関係なく、みんな自由に語り合う。それに刺激され、明日への活力をたくさんもらうことがある。そして、結果帰るのが遅くなる。こういうのもクオリティ・オブ・ライフって言えるのかな？

「時間」ってとても大切だけど、とりとめのないことや小さな悩み、今思うことを誰かに話したり、聞いてもらったりすることで、自分の何かが救われたり気付かされたりすることがある。それが前向きな話に変われば、なお楽しい。「働き方」と「時間」は両輪で、バランスは大事だけど、またいつかゆっくりと子どもたちのことや授業のこと、教育のことを語り合える日がくるといいなあ~と思う。そして組合や分会がその1つになり、「教職員やっていてよかった！」と思える日が来たら嬉しいなと夢見る今日この頃である。



積み重ねで得たもの

もうすぐ執行部としての任期を終えようとしている。

校種ごとの労働環境や困り感の違い、行政から下りてくる教育政策について考え、学ぶ機会がたくさんあった。現場の外を知るという意味では、これからの糧になる部分も少なからずあったのかなと終わりが見えてきて感じている。

この1年、頭を下げるが多かった。物配で対応してくれる職員に声をかけたとき、あたたかく迎えてくれる方、慌ただしく忙しい方にも必ず『すみません』から会話が始まる。部活動指導は途中で抜ける事が多かった。そのときには『ごめん』と伝えてから出て行く。

執行部になることで、担任ができない。部活動指導に時間的な支障がでることで悩まされた。担任をもち、しっかりと部活動指導をしたいと思う気持ちが以前よりも強くなっていくのを感じた。執行部の活動に思うことはたくさんある。『何をしているかわからない』と声をかけられることもある。煙たがられることもある。しかし、誰かがやらなきゃいけない。毎週夜遅くまでの会議に参加してきたが、書記局で働いている人たちは良心的で一人ひとりが自分事として問題に向き合っている。その一員としての立場がある今は、同じ思いでやっていこうと葛藤しながらも活動している。今ある環境や権利は組合員たちが良かれと思って行動してきた積み重ねによる結果でもあるから…



「お米一合運動」のとりくみ ありがとうございます。

12月下旬、湘南教組からお米100kgと湘南地域の労働組合等から集まったお米とフードを、「フードバンクかながわ」に寄贈しました。ご協力ありがとうございました。



1月からのコロナ感染拡大により、生活困窮者や食事に困っている世帯、学生が増え続け、集まったお米がすぐに底をついてしまう状態であるとの報告がありました。湘南教組としても組織の力を結集し、引き続き、「お米一合以上運動」を実施します。各分会の積極的なとりくみをお願いします。

※重くて運べない場合は、湘南教組にご連絡ください。回収に伺います。

湘南教組 当面の活動予定

日程	予定	開始時刻	場所	対象
2月25日(金)	神教組中央委員会	15:30	県教育会館	執行部
3月1日(火)	役選投票提出		湘南教育会館	分会員
3月5日(土)	役選開票作業	10:00	湘南教育会館	選管委員
3月11日(金)	第3回青年委員会	17:30	web	青年委員
	修正案採決書提出		湘南教育会館	中央委員
3月12日(土)	「登校拒否」を考える交流会	14:00	藤沢市立長後小学校	希望者
3月14日(月)	中央委員会(書面開催)		各分会	中央委員
3月15日(火)	鎌倉地域協議会	16:30	鎌倉芸術館	分会長
	茅ヶ崎・寒川地域協議会	16:15	寒川町民センター	分会長
3月16日(水)	藤沢地域協議会	16:15	湘南教育会館	分会長
	中央委員会書面表決書〆切		湘南教育会館	中央委員
3月22日(火)～	組織化オルグスタート!!			

湘南教組の情報をより早くうけとりたい方は、こちらからメルマガのご登録をお願いします。コロナ禍の服務に関わること、学習会の開催情報、その他にも組合員のためになる情報を定期的に発信しています!

